熊谷市
記者クラブ取材情報

令和　3年　5月　28日発表
担当課:社会教育課
（市史編さん室）

タイトル

『熊谷市史調査報告書　中世の石造物』の刊行及び販売

1．日時　現在販売中

2．場所　発行：熊谷市　編集：熊谷市教育委員会
販売場所：市役所本庁舎・社会教育課、市立熊谷図書館、江南文化財センター、 市史編さん室（市立妻沼展示館内）、須原屋 熊谷店(八木橋百貨店内)、戸田書店 熊谷店、めぬま館

3．事業概要

【内容】『熊谷市史調査報告書　中世の石造物』を刊行し、現在、販売を行っている。
　本書は、市内にある平安時代末期から戦国時代頃までに造られた石造物 ３，３９９点について取り上げた調査報告書である。
　第一分冊には、概要や熊谷市史編集委員等による考察、及びすべての石造物の一覧を掲載した。また、第二分冊には、特に重要な石造物の写真（カラー）、１１６ページにわたる拓本などの図版、現存するものほぼすべてについての写真（モノクロ）を掲載した。

【目的】市内には、江南地域に国内で最古（１～３番目）の、「板碑（いたび）」と呼ばれる石造物が存在するなど、全国的にも注目に値する状況がある。
　これまで、江南地域の石造物についての報告書は刊行されているが、市内の他地域における網羅的な調査は行われていなかった。そのため、１０年余りの期間をかけて当該地域の中世石造物に関する詳細な調査を行い、その成果を報告したものである。

【経緯】熊谷市史編集委員等が、平成１９年度から令和２年度にわたり、江南地域を除く市内すべての寺院や神社、墓地、路傍のほこら等を確認し、該当する石造物の悉皆（しっかい）調査を行った。その結果、市内５１７地点において、中世石造物を確認した。
　なお、そのうち約１，３００点が、今回新たに確認されたものである。また、逆に、過去の埼玉県等による調査において存在が確認されたが、現在は所在不明となっているものが２５９点あった。

4．特徴やPRポイント

・３，０００点を超える石造物を取り上げ、豊富な図版と写真を掲載した。
・古い時代の板碑が多いことが判明した。新発見や数十年ぶりの再発見もあった。
【上奈良個人蔵板碑】新発見。正嘉３年（1259）の銘を持つ。正面にバーンク（金剛界大日如来）、背面にアーンク（胎蔵界大日如来）の種子（しゅじ、仏を表す梵字）を刻む国内唯一のもの。
【大原報恩寺墓地板碑】紀年銘はないが、古く鎌倉時代中期に造られたもの。市内で２番目に大きい、高さ２５８㎝、古風なキリーク（阿弥陀如来）種子を刻む。元は鎌倉町旧仙元塚にあったが、長い間所在不明であった。今回の調査で、報恩寺墓地に移設されていたことが判明した。

5．その他

頒布価格　２，０００円

※ 資料の有無（ 有 ・ 無 ）　刊行物の実物

担当者　社会教育課（市史編さん室）　蛭間　健悟
連絡先　０４８－５６７－０３５５